

都市幼稚園に於ける観察について

東京市視學 岡崎 常太郎

(これは去る十一月七日の本會主催幼児教育講演會に於ける講演の主要筆記であります。文責在筆記者。)

前おき

幼稚園の事に付きましては私は未だ幼稚園生くらゐの者で、クロウトの皆さんの前でお話するのは厚
釜しいことですが、倉橋さんからの勧めですから、盲蛇に怯ぢずの感はありますが、何かお話を
することに致しました。そんなわけでありますから今日申上げるとはシロウトの申すこととしてお聞きを
願ひ、それを参考として御活用いただきたいのであります。私はさて幼稚園の観察を申しまして今日
話しますことは、園児に對して直接に役立つといふことよりも、保母の皆さんに、自ら観察する習慣をつ
けていただきたいといふことと、幼稚園の観察を私は如何に考へるかといふことを申して見たいのであ
ります。

考へあやまられたる教育

私はまづ、幼稚園教育は教育として眞の教育、眞の價値ある教育だと思ひます。幼稚園教育の重要なことは私が申す迄もありません。先日倉橋さんから「就學前の教育」(岩波書店發行の教育科學第一卷別刷)をいただきました。これを讀むと幼稚園教育の重要なことが我々シロウトにはよく分ります。今日はその第一頁を讀みあげてお話のきつかけをいたします。

第一章 第一節教育通念に於ける誤謬

教育は學齡からと、たが言ひそめたことか、昔も今も、教育通念に於ける一つの誤謬をなしてゐる。親も社會も、教育といへば一途に學校を思ひ、學校以外の時期には教育が無いと考へてゐるかの風さへある。少くも其の教育的重要性を認識するに於て格段の差別を置いてゐる。但、これには無理からぬ根據もある。教育を以て人間の有用化本位に考へる限り、「生活ニ必須ナル知識技能ヲ授クル」小學校を以て教育の初まりとするは一種の當然でもある。知識技能を授けらるゝにはそれを受け得る可能性が出来てゐなければならず、それには凡そ學齡の時期を待たなければならぬからである。しかも、人間の有用化ばかりが教育でなく、その以外にも、教育の大切な領域があることは言ふまでもない。

我々は、教育といふものを、又教育者といふものを、せまく見過ぎては居なかつたでせうか。教育を今少し廣く考へる必要はありますか。教育者を、又教育の場所をもつと廣く考へる必要はありますか。

まいか、教育者を學校の先生、教育の場所を單に學校なりとする考へは今日においても相當に強い様
思はれます。父兄は教育の事は學校の先生に任せたらよいと思ひ、父兄自らが先生と同様の教育者なる
ことを考へません。學校の先生は教育は自分が一手に引き受けて居るのだと考へて、自分等よりより
上に力強き教育者の多數ある事を深く考へる事をいたしません、これが爲に今日種々な社會上の缺陷を
生じて居るのであります。これは正しく學校が唯一の教育所であり、先生が唯一の教育者であること考へ
る所の弊であります。

教育者は、教育の中心に立つものに相違ありませんが、廣く考へると、教育力の有るものは教育者以
外に澤山あります。私は教育を廣義に考へ、子供に對して感化を與へるものを凡べて教育者と見たので
あります。生命を有する者はもとより、生命の無いもの例へば教室に具へてある飼育鉢、水槽、花瓶、花
等の如きものも、すべて教育者といひたいのであります。たゞに室内の物だけでなく、廊下又は運動場
或は往復の道中に、或は家庭内に有力な教育者が澤山にあります。世間一般の人がすべて斯くの如く教
育を觀るならば、教育力の徹底は全く想像の外にあると思ひます。

殊に幼稚園に於ては、大體の傾向が、成る可く詰め込まぬ様にし、幼兒が自身の中に持つて居るもの
を引き伸して行く様に勉めて居られることは教育上誠に喜ぶべき事で、私は之を一種の無言の教育とい
ひたいのであります。小學校は書物で教へます。それから先生が口で教へます。結局大部分は詰め込み

になります。しかしそれではいけないので、私は無言の教育が大に必要で、無言の教育こそ教育の眞髓であると考へます。幼稚園では教へるのを主としなから子供に詰め込むといふ事はしなくても濟みます、又、子供を中心にして教育するといふ事が濃厚ですから、本當の教育が行はれる状態にあります。この事は誠に愉快な點ですが、皆さんはこれを考へて眞に立派な教育を爲し得る境遇に在ることを自覺して頂きたいものであります。

環境の教育力

無言の教育をするにはその境遇を作らなくてはなりません。旅人の外套を脱がせるには強く吹く風よりも和かに温めたお日様の方が成功した寓話の如く、教育の要諦は、その境遇、環境に重きを置かなければなりません。私は教育は境育なりと見てもよいと思ひます。幼稚園の教育は幼兒を培ひ伸して行くこと見なければなりません。話は我田引水になりますが、教育は植物の栽培動物の飼育に似通つた所があります。植物の例を取りますと、畑に豆を蒔いた場合、十個蒔けば十個共出来榮が違ふ、成長の仕方とも豆の成り振りが違ふ。これは豆の本質の違ひであります。又幾ら種を厳選して粒をそろへても、畑が違へば出来榮がちがふ。又同じ種、同じ地面でも栽培者の力量によつて出来ばえに非常の違ひがある。人の教育も之と似通つた所があると思ふ。昨年上野の精養軒に於て、永田市長が市内の小學校長に向ひ、

「菊つくり汝は菊の奴なり」の句をあげて、話された事がありました。その時私は菊の栽培が人間の教育に似通つた所があるのみならず、我々教育者は菊作りに對し遙かに遜色のある事をつくづく感ぜさせられたのであります。植物の栽培は、幼兒に觀察させるために行ふばかりでなく、保姆の方々が自分の修養のためにやるのであるといふ考をもつて頂きたいのであります。

次に動物の例をとります。私はずつと前にコホロギを飼つた事がありますが、ミツカドコホロギ——顔を正面から見ると三つのごんがりがある、雌にはない——を飼ひますと、トンガリが段々小さくなりまして、殆ど別種と思はれるほどになります。之は主として食量の不十分によるかの如くに思はれますが、兎に角榮養の如何により子供の心身の發達に影響のあることは、之によつてはつきり分りません。腐りかけたナツバに附いて居るシヨウジ ヨウバイは眞紅です。小さいものですから普通の人は氣附きませんが、外國では遺傳の研究に使つて居ます。私は先年八百屋から葡萄を買つて來て水を注いで食べかけますとウジが匍つて居るのを見つけました。よつてそのウジとブドーのこわれかゝつた一粒を一しよにビンに入れてセンをしておきました所が、やがて赤いシヨウジ ヨウバイになりました。そのまゝ打つちやつておきますと二代目になりました。初代に比べると形が少し小さくて色が薄い。三代目になると更に小さくて色が薄くなり、四代目にはまるで灰色になり形も初代の半分位になりました。食料が不十分だし、シメリも適當で無かつたからでありませう。この事は一般動物にも押し擴めることが出來

ます。いくら池が大きくても澤山の鯉をはなし過ぎると大きいのは出来ません。日本の國などは場所がせまくて人間が多いから右に述べたシヨウジウバイの様な工合にならない様に努力しなければなりません。動物飼育は實際やつて見ると面白いし、言ひ知れぬ味があるものです。しかし保母さんが卒先してやつて見る気分にならなければ子供の指導はなか／＼むづかしい事でありませう。

それから或動物は氣候によつてもなか／＼違つたものになります。キアゲハの春出て来るのは形が小さくて、色は鮮やかに、黒味が尠いが、夏出て来るのはずつと黒味が強くて形が大きい。次に食料の多少を動物の性質について述べます。蜜蜂は春から夏にかけて花が澤山で蜜の豊富な間はかなり落ち付いて居りましたが大抵そば近くに行つても我々を刺しません。しかし秋も過ぎ寒くなると貯への蜜を食べて行くのですが食料の不足問題が起りますので、今迄そばに顔を出しても刺さなかつたのが近寄つただけでも刺しますから、うつかり出来なくなります。これは食料の不足が性質を變へるのでありますが、我々人間でも同じ事です。又食物の種類によつても性質に相違を來すもので、その最も著しい例は酒であります。酒をのませると憂鬱性の者が愉快になつたり磊落な人が泣き出したりして、その影響は實に著しいものであります。要するに食物の如何により人間の體質や性質に關係を及ぼす事は否定する事の出来ない事柄だと思はれます。

環境教育と觀察の必要

云ふまでもなく幼稚園に於ては、先づ幼児を十分に研究してかゝらねばなりません。理想的にいふと一人の保姆がエミールの如く一人の幼児に付き得るならば、先づ幼児の遺傳をしらべ、胎教をしらべ、幼稚園へ上る迄の境遇をしらべ、現在の心身のよつて來る所をつきとめて然る後教育にかゝる可きであります。即ち、それから如何なる所に持ち行くかと環境を考へるのです。私は、榮養の方面の研究が進歩すれば、それによつてある點迄は子供の性質を變へ得るものではないかと思ひます。心身は決して二つのものではありません。精神方面を見ようと思ふには同時に身體方面をも見なければいけません。只一方のみを考へたのでは、到底十分の指導をなし得るものではありません。

そこで、環境の影響が著しいものだとすれば、如何なる環境を作つてやるべきかは、子供をよく識つた上に考ふべき事です。つまり子供をよく觀察した上に出来ることなのであります。保姆自身が觀察力を養ふべき必要は斯様な所にも在るのであります。

幼児は何事にも不思議を以て質問しますが、幼児の心はその爲に發達するのですから、成るべくよい疑問を持たせる様に環境を作ることが大切であります。

觀察の缺けた國民性

日本人は發見創造力に富むとはいへません。或はその力を助長する教育が今迄無かつたのかも知れませんが、この缺陷は餘程古くから、あやまられた教育の結果だと思ひますが、一體に日本人は先祖傳來觀察を怠る國民であります。「ミ、ズが鳴く」と言ひますが、實際鳴くか否かを確かめようとはしません。鳴かせて見様とか、或は鳴く機關を持つて居るかどうか調べて見るなど、もとよりいたしません。我々は先祖代々何百何千年を斯様にして過して來ました。小學校に於てミ、ズを解剖する必要はありませんまいが、尠くも「ミ、ズが鳴く」と聞けば、長年月の間には幾人かミ、ズを捕へて實驗するものがあつてもよいではありませんか。世界の競争場裡に立つ現在の日本人としてはかゝる状態に満足してよいでせうか、ウドングノハナが咲いたからいゝ事があると云つて喜び、或は凶事が出來すると言つて心配するが、ウドングは何であるかをつきとめようとは決してしない。これが我々の同胞であります。しかし注意するまでもなくアブラムシの澤山に著いて居る植物は到る處にあります、その邊りに、白い絹絲の様なもの先に丸い玉が附いて居るのを見付けることは市内でもむづかしくはありません。これが即ちウドングであります。三千年目に一度咲くといふウドングと同じもの様に思はれて居るものです。しかし之はクサカゲロウといふトンボに似た昆蟲の産みつけた卵です。産卵當時は綠色、段々に色が變り終ひには青くなります。やがてその中からシラミの様な蟲が出ると後は白くなります、來年は氣をつけて御覽なさい。そして子供に觀せると否とに關はらず、繼續的に飼育して御覽なさい。

田舎では、子供のお腹に蛔蟲が居るのを當然だと思つて居ります。ヂストマ、蛔蟲、十二指腸蟲とあらゆる寄生蟲を持つて居る國として日本は世界一です。本年内務省が全國の寄生蟲驅除を計畫して居りますが、我々はこれ等の仕事をお役所がやつて呉れる迄捨て、おく國民です。シロアリの如きも全國到處にはびこつて居ります。それを「又今年も羽蟻が澤山に出た」、と云つて見て居るだけで、誠に以て呑氣千萬であります。それが爲に今日に於ては到底驅除の出来ない程に繁殖してしまひました、ハへにしても、同様で東京市の如きもハへの都です。最近統計をとつて見ましたが一月から三月までの冬のハへは東京市内に十一二種あり、一萬匹餘り採取しました。中どの種類も雄より雌が多數でありました。冬の最中でもこんな工合でありますから冬から驅除にかゝれば、蠅の撲滅はさして困難な事ではないと思ひます。

その他梨をアリノミといつたり、丙午の生れのお嬢さんが嫁入先がないといふ様な馬鹿げた迷信が、昭和の今日に於ても依然として取り去る事が出来ないとはあきれはてた次第ではありませんか。これは畢竟觀察といふことの足りぬ國民であるからであります。其處で、我が國民にとつて最も重要な事は實物にぶつかつて、それを基として考を立てる事の訓練であります。而して此訓練は觀察を於て他に方法はないのであります。觀察は必ずしも動物植物に限りません。我々の體以外のものは悉く觀察材料であります。觀察を幼時より指導する事はやがて國民性を改造する唯一の良法であると思ひます。(以下次號)